

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ガイドヘルパー講座Ⅱ Course of Study on Mobility Guide Ⅱ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(ガイドヘルパーユニット必修)	ガイドヘルパー講座Ⅱだけの履修は認められない。ガイドヘルパー講座Ⅰ、Ⅲも必ず履修すること。
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ガイドヘルパー講座Ⅰ・Ⅲ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ガイドヘルパー講座Ⅰ・Ⅲ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
久保 由佳	福祉棟2階	月～金 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
全身性障害および強度行動障害のある人の移動支援に関する基礎的な知識と技術を学習する。全身性障害に関する移動支援では、車いすの使用を含め、障害に応じた移動支援技術を習得する。また、行動援護に関しては、疑似体験を通して障害特性を理解し、事例をもとに行動の背景と支援のあり方について考える。				
授業の目標				
①全身性障害および強度行動障害のある人の日常生活を捉え、障害のある人の思いに気付くことができるようにする。 ②車いすの基本構造を説明でき、点検および操作ができるようにする。 ③全身性障害のある人の移動支援方法と留意点を説明でき、安全かつ安楽な車いすでの外出支援ができるようにする。 ④強度行動障害のある人の障害特性から利用者像をイメージできるようにする。 ⑤強度行動障害のある人の適切な外出支援方法を選択できるようにする。				
授業の方法				
講義、演習、視聴覚教材の視聴、グループワーク、事例検討、ロールプレイ等、多様な授業形態である。全身性障害のある人の移動支援演習は、校内および校外にて行う。				
学習の成果(学習成果)				
①全身性障害のある人の移乗および移動支援技術を習得し、車いすでの外出を支援することができる。 ②強度行動障害のある人の障害特性をふまえて、適切な外出支援方法を考えることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス、演習時の諸注意(30分) 基本的な移動の介護に係る技術に関する講義①：全身性障害者の理解(60分)			
第2回目	基本的な移動の介護に係る技術に関する講義②：車椅子の種類と機能、姿勢保持(90分)			
第3回目	基本的な移動の介護に係る技術に関する講義③：外出前の準備、移動支援時の留意点(30分) 車いすでの移動の介護に係る技術に関する演習①：生活行為の介助(60分)			
第4回目	車いすでの移動の介護に係る技術に関する演習②：車いすへの移乗介助(90分) 【レポート1：演習の振り返り、提出は第6回目の授業時】			
第5回目	車いすでの移動の介護に係る技術に関する演習③：車いすでの移動(外出)介助(90分)			
第6回目	強度行動障害と生活の組み立てに関する講義①：家族の思い、支援の実際(90分)			

第7回目	強度行動障害と生活の組み立てに関する講義②：支援の実際（30分） 行動障害の背景にある特性の理解に関する演習①：感覚・知覚の特異性と障害特性（60分） 【レポート2：演習の振り返り、提出は次回授業時】	
第8回目	行動障害の背景にある特性の理解に関する演習②：障害特性、冰山モデルについて（90分）	
第9回目	障害特性の理解とアセスメントに関する演習①：事例分析(行動の理由と障害特性を考える)（90分）	
第10回目	障害特性の理解とアセスメントに関する演習②：事例分析(発表とまとめ)（60分） 環境調整による強度行動障害の支援に関する演習①：構造化、誤学習（30分）	
第11回目	環境調整による強度行動障害の支援に関する演習②：グループによる事例分析(外出支援計画の検討)（90分） <外出支援計画と支援手順書の作成、提出期限は授業で指示する>	
第12回目	環境調整による強度行動障害の支援に関する演習③：グループによる事例分析(必要な構造化の検討)（90分）	
第13回目	環境調整による強度行動障害の支援に関する演習④：グループワーク(支援手順書の作成)（90分）	
第14回目	環境調整による強度行動障害の支援に関する演習⑤：行動援護場面のロールプレイ（90分） <ロールプレイによる発表>	
第15回目	環境調整による強度行動障害の支援に関する演習⑥：ロールプレイの振り返り、必要な支援（30分） 記録に基づく支援の評価に関する演習（60分）	
事前・事後学習	日頃から障害者（児）に関する本や話題に興味・関心をもつこと。 授業でわからなかった点は、各自調べたり、教員に質問したりすること。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	S評価は、①授業で使用する教材を準備し、必要なことはノートにとっている。②実技演習時は身だしなみを整え、積極的に取り組んでいる。③グループワーク時は他学生の意見を聞いた上で、自分の考えを述べている。
レポート	20%	第4回目、第7回目にレポートを課す。S評価のレポートは、体験したことを振り返り、学びや気づきが具体的に記述されていること。援助の視点を含め、自分の考えがまとめられていること。
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	穴埋め、選択、記述形式の問題とする。行動援護に関しては、事例から障害特性や支援方法を考える内容も出題する。
発表内容（態度含む）	10%	以下の視点で評価する。①外出支援計画および支援手順書を具体的にまとめ、期限までに提出していること。②事例を踏まえ、わかりやすく工夫して発表（ロールプレイ）していること。
その他		
教科書と参考図書		
①ガイドヘルパー研修テキスト 全身性障害編 中央法規出版 ②強度行動障害支援者養成研修〔基礎研修・実践研修〕テキスト 行動障害のある人の「暮らし」を支える 中央法規出版 その他、適宜資料を配布する。		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（職種：介護福祉士、職歴：通算6年） ガイドヘルパー講座Ⅰ～Ⅲの単位を取得し、必要な手続きをすると、「修了証明書」が発行される。講義・演習ともに積極的に参加すること。飲食物や携帯電話等、教材以外のものは机上に置かない。やむを得ず欠席した場合は、速やかに届け出を提出すること。天候によっては授業内容を交替する場合がある。		